

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

# 東京都感染症週報

2015年第11週  
(3月9日～3月15日)

- \* 2015年3月18日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は月報告(2015年2月)の疾患及び感染症豆知識「予防接種の変遷と現状 小児科医の現場から」も掲載しています。

平成27(2015)年3月19日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年11週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	77	68	59	67	666	345	4,522
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 <sup>*1</sup>							
	中東呼吸器症候群 <sup>*2</sup>							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) <sup>*3</sup>							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢	2	2			8	3	25
	腸管出血性大腸菌感染症		1	1	4	13	15	206
	腸チフス					2	2	8
	パラチフス					2	1	8
四類	E型肝炎			3	1	7	6	41
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2				6		66
	エキノコックス症					1		4
	黄熱							
	オウム病							3
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症						1	1
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 <sup>*4</sup>							1
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱		1			2		2
	つつが虫病							17
デング熱		1	1	1	12	2	39	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

\*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

\*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

\*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							1
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア				1	1	1	2
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症	1		4		17	20	229	
レプトスピラ症			1		1		1	
ロッキー山紅斑熱								

2015/3/18集計

( 全数把握対象疾患のコメント・一類～四類 )

〈二類感染症〉

**結核 67件** 肺結核 25件、その他の結核 11件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 24件、疑似症 6件、年齢は5歳未満 2件、10代 3件、20代 7件、30代 10件、40代 9件、50代 5件、60代 6件、70代 11件、80代 11件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 66件、ドイツ 1件であった。

〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 4件** 患者 2件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O145 VT2 1件、O157 VT1・VT2 1件、O157 VT2 1件、年齢は10代 2件、20代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、アルゼンチン 1件、推定感染経路は経口感染(肉類) 2件、不明 2件であった。

〈四類感染症〉

**E型肝炎 1件** 患者、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染(豚レバー)であった。  
**デング熱 1件** 患者、病型はデング出血熱、血清型は不明、年齢は20代、推定感染地はインドネシアであった。  
**マラリア 1件** 患者、病型は不明、年齢は40代、推定感染地はガボンであった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年11週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
五 類 (全 数 届 出 )	アメーバ赤痢	1	7	2	2	39	9	203
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	1			7	4	38
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	1	3	5	4	26	16	234
	急性脳炎 *1	1	1	1		15	3	139
	クリプトスポリジウム症					2		4
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1		1	5	2	35
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3	1	1	15	5	113
	後天性免疫不全症候群	7	8	8	10	74	14	251
	ジアルジア症	1				1	1	14
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					5	6	58
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		3		8
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	7	7	5	74	22	568
	水痘(入院例に限る) *2	2	1			7	2	58
	先天性風しん症候群							
	梅毒	16	15	17	10	130	28	331
	播種性クリプトコックス症 *2				1	2	2	24
	破傷風						1	14
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症						2	11	
風しん	1	2		1	7	3	38	
麻しん					1		7	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2							4	

2015/3/18集計

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

\*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

### （全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 2件** 病型は腸管 2件、年齢は30代 2件、推定感染地は国内 1件、国内又は国外(中国又は台湾又はフィリピン) 1件、推定感染経路は異性間性的接触 1件、性別不明性的接触又は経口感染 1件であった。

**カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件** 患者 4件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 2件、エンテロバクター・クロアカ 2件、年齢は50代 2件、80代 2件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は手術部位感染 2件、以前の保菌又は医療器具関連感染(中心静脈カテーテル) 1件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し 4件であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 古典型CJD、年齢は70代であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件** 血清群はA群、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。患者は死亡が確認された。

**後天性免疫不全症候群 10件** 無症候キャリア 10件、年齢は20代 4件、30代 4件、40代 2件、推定感染地は国内 8件、国内又はフィリピン 2件、推定感染経路は性的接触 10件(同性間 7件、異性間 2件、両性間 1件)であった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 5件** 血清型は検査未実施 5件、年齢は10代 1件、40代 1件、60代 1件、70代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は接触感染 1件、不明 4件、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し 3件、不明 2件であった。

**梅毒 10件** 先天梅毒 1件、早期顕症梅毒Ⅰ期 1件、早期顕症梅毒Ⅱ期 1件、晩期顕症梅毒 1件、無症候梅毒 6件、年齢は5歳未満 1件、20代 2件、30代 3件、40代 2件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 10件、推定感染経路は性的接触 8件(同性間 4件、性別不明 4件)、母子感染 1件、不明 1件であった。

**播種性クリプトコックス症 1件** 患者、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染原因は免疫不全(免疫抑制剤使用中)であった。

**風しん 1件** 臨床診断例、年齢は10代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種済みであった。

※ 第10週該当分として〔五類〕侵襲性髄膜炎菌感染症 1件(血清群は検査未実施、同居者有り、予防内服中)の追加報告があった。

# 定点把握対象疾患 報告数 2015年11週

上段: 報告数  
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		8週	9週	10週	11週		
小児科	RSウイルス感染症	81 0.31	64 0.24	53 0.20	49 0.19	259	264
	咽頭結膜熱	48 0.18	56 0.21	47 0.18	55 0.21		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	702 2.69	812 3.09	863 3.29	856 3.31		
	感染性胃腸炎	2,196 8.41	2,354 8.95	2,259 8.62	2,340 9.03		
	水痘	122 0.47	125 0.48	156 0.60	136 0.53		
	手足口病	23 0.09	26 0.10	25 0.10	20 0.08		
	伝染性紅斑	174 0.67	194 0.74	234 0.89	180 0.69		
	突発性発しん	118 0.45	128 0.49	143 0.55	125 0.48		
	百日咳	8 0.03	1 0.00	2 0.01	7 0.03		
	ヘルパンギーナ	3 0.01	2 0.01	1 0.00	3 0.01		
	流行性耳下腺炎	67 0.26	65 0.25	49 0.19	88 0.34		
	川崎病 *1	1 0.00	6 0.02	6 0.02	9 0.03		
	不明発しん症 *1	10 0.04	15 0.06	12 0.05	13 0.05		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	2,213 5.33	1,694 4.07	1,175 2.84		
眼科	急性出血性結膜炎			1 0.03		39	39
	流行性角結膜炎	7 0.18	12 0.31	16 0.41	15 0.38		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	1 0.04	1 0.04			25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	1 0.04	1 0.04		
	マイコプラズマ肺炎	6 0.24	12 0.48	1 0.04	3 0.12		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)			4 0.16	1 0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4	3 0.12	2 0.08	6 0.24	2 0.08		
	インフルエンザ入院	16 0.64	16 0.64	12 0.48	7 0.28		

2015/3/18集計

\*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

\*2 鳥インフルエンザを除く。

\*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

\*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ( 今週の注目される定点把握対象疾患 )

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び伝染性紅斑の定点当たり報告数は過去5年平均を超えている。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年11週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	16		1	15	1			2	1		
6～11か月	14	1	3	61	6	2		47	1		
1歳	10	12	16	243	6	3	4	61			2
2歳	6	13	34	214	3	6	17	12		1	3
3歳		4	58	157	16	2	21	2			7
4歳	2	11	122	206	29	4	38				24
5歳	1	6	125	213	17	1	40	1			16
6歳		4	116	200	24	1	31				9
7歳		3	110	163	18		10				3
8歳			69	163	5	1	8		1		4
9歳			60	118	6		3		1		3
10～14歳		1	89	293	5		5			2	15
15～19歳			7	65							
20～29歳			46	229			3		3		2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	49	55	856	2,340	136	20	180	125	7	3	88
先週比	-4	8	-7	81	-20	-5	-54	-18	5	2	39

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1	2								
6～11か月		1	7		1						1
1歳	5	1	34							1	
2歳	2	2	40								
3歳	1		49								
4歳	1	1	54								
5歳		1	53							1	1
6歳		3	99								
7歳		1	79					1			
8歳		2	60								
9歳			50								
10～14歳			183		1		1	1			
15～19歳			49								
20～29歳			65		2						
30～39歳			84		5			1			
40～49歳			109		3						
50～59歳			41								
60～69歳			25								
70～79歳			17		3				1		2
80歳以上			7								3
合計	9	13	1,107		15		1	3	1	2	7
先週比	3	1	-68	-1	-1			2	-3	-4	-5

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2015年11週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				2.00	1.00			0.33			
中央区		1.00	1.33	12.00		0.33	0.33				
みなと	1.00	1.00	3.00	8.50	0.33		0.17	0.50	0.17		
新宿区	0.63	0.13	2.00	6.00	0.13			0.38	0.13		
文京			2.00	6.25	1.00			0.75			1.00
台東			1.50	16.25	0.75	0.25	0.50	0.25		0.25	0.75
墨田区		0.20	3.80	7.00		0.20	0.60	1.00			1.00
江東区	0.11	0.11	4.11	15.89	0.89		0.67	0.44		0.11	0.44
品川区	0.13	0.25	5.00	11.25	0.25		0.25	0.38			
目黒区			2.60	6.60		0.40	0.60	0.20			
大田区	0.46		5.31	14.23	0.38	0.23	1.15	0.62	0.08		
世田谷	0.06	0.25	1.69	8.19	0.38		0.31	0.38			0.06
渋谷区	0.50			4.75	0.25		0.25				
中野区		0.17	2.33	10.00	2.33		0.17	0.33			
杉並			2.82	6.36	0.55		0.91	0.09			0.18
池袋	0.50	0.25		3.75			0.25	0.25			
北区		0.43	1.71	8.86			2.00	0.43			
荒川区		0.50	9.00	9.75	0.75		1.00	1.25			0.50
板橋区	0.10		1.40	4.60	0.20	0.20	0.60	0.20	0.10		0.40
練馬区		0.17	3.00	6.83	0.25	0.08	1.25	0.33			0.33
足立	0.15	0.15	1.85	10.31	1.00	0.31	0.46	0.31			0.92
葛飾区	0.38	0.38	2.00	9.63	0.25	0.25	0.25	0.50		0.13	0.13
江戸川	0.25	0.50	3.83	9.50	0.33		0.33	0.33			1.17
八王子市	0.27		5.36	15.36	0.91		1.27	0.82			0.45
町田市	0.63		8.25	11.88	0.50		0.88	0.38			0.25
西多摩	0.13	0.38	1.50	7.25			0.38	0.38			1.50
南多摩	0.11	0.11	3.56	12.78	0.67		1.67	1.33			0.11
多摩立川			3.29	6.00	0.71		0.71	0.50			0.29
多摩府中	0.22	0.39	4.00	8.06	0.44	0.17	0.33	0.61	0.17		0.22
多摩小平	0.13	0.27	5.53	7.20	0.93		1.53	0.80			0.27
島しょ		2.00			2.00						
東京都	0.19	0.21	3.31	9.03	0.53	0.08	0.69	0.48	0.03	0.01	0.34

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田	0.33		2.50								
中央区			7.20		1.00						
みなと			1.78								1.00
新宿区			1.83		0.50						
文京			1.00		3.00						
台東			2.14								
墨田区			1.75		1.00						2.00
江東区	0.33		5.21								
品川区			3.42								
目黒区			0.88								
大田区		0.08	2.35								
世田谷		0.06	2.40				0.50				
渋谷区			0.50							1.00	1.00
中野区		0.33	2.70								
杉並	0.09	0.18	3.76								
池袋			2.71		2.00						
北区			2.09								
荒川区			2.86		2.00						
板橋区			1.19		0.50			1.00		1.00	
練馬区			2.37		0.50						
足立			1.55								
葛飾区			2.46						1.00		
江戸川	0.08		1.95		0.50						
八王子市		0.27	3.89								
町田市	0.13	0.25	3.15								
西多摩			2.43								
南多摩			3.79								
多摩立川	0.07		3.81								
多摩府中	0.06	0.11	2.07					0.33			
多摩小平			4.30		1.00			0.50			1.50
島しょ			1.00								
東京都	0.03	0.05	2.70		0.38		0.04	0.12	0.04	0.08	0.28



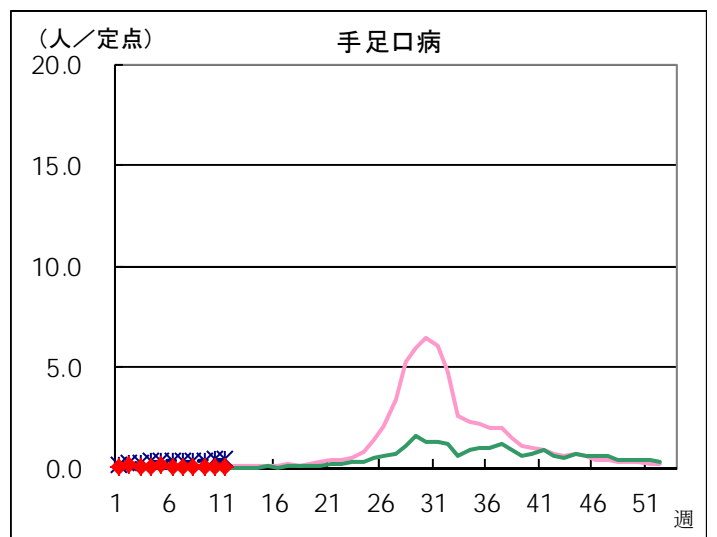
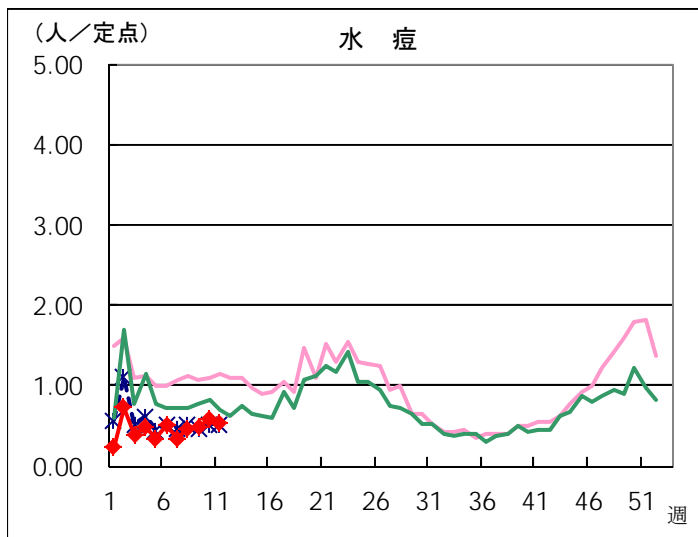
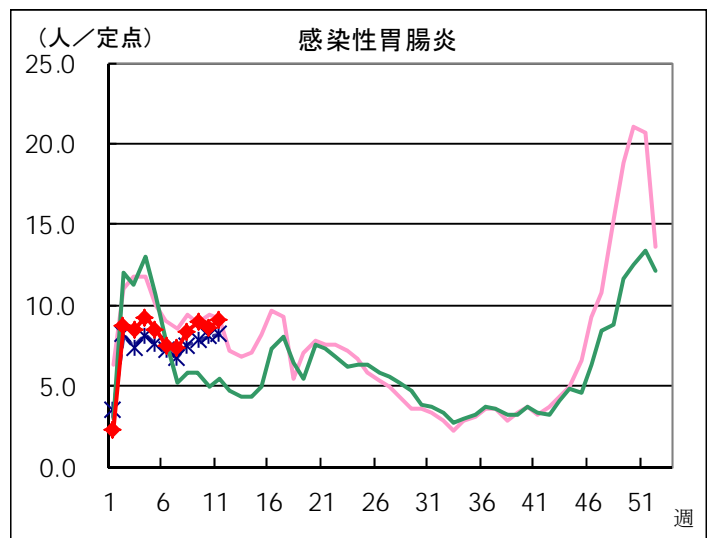
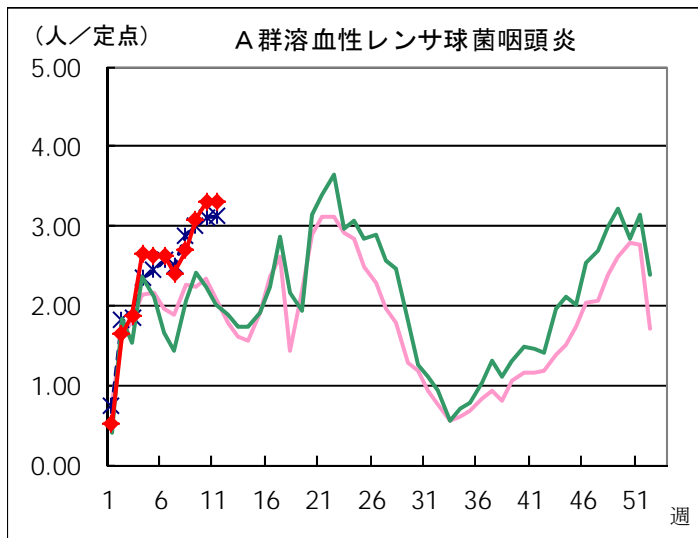
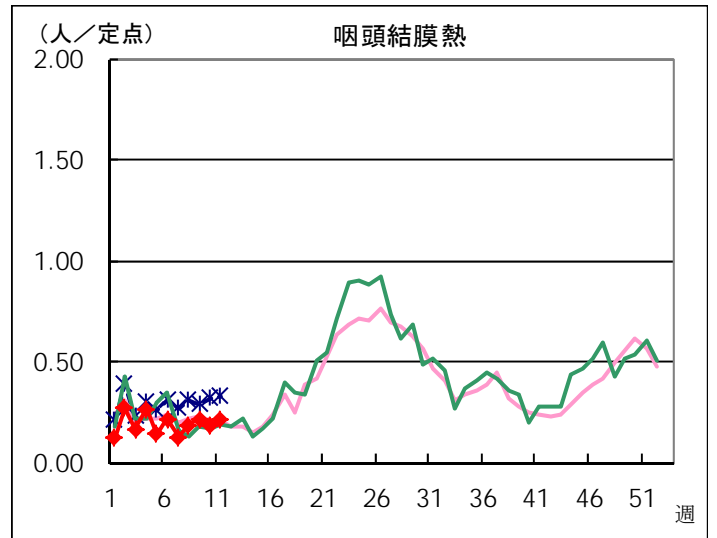
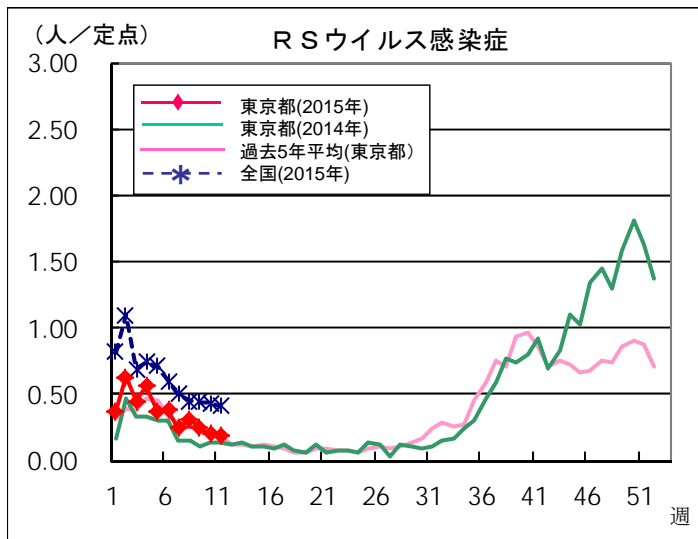
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年11週

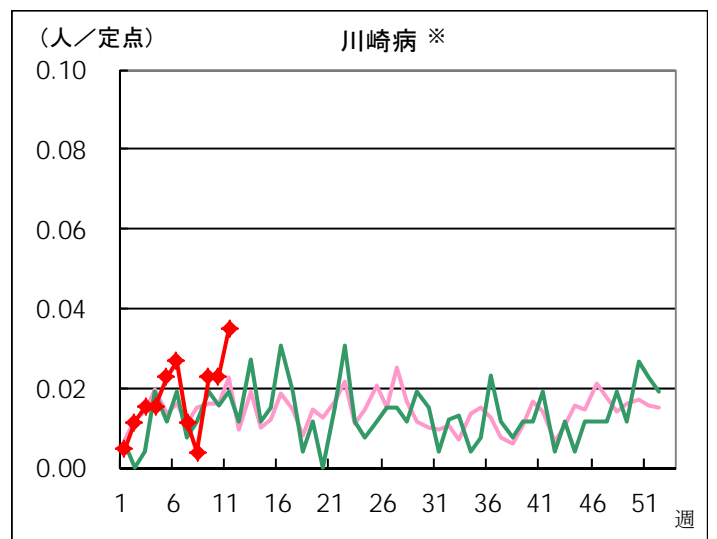
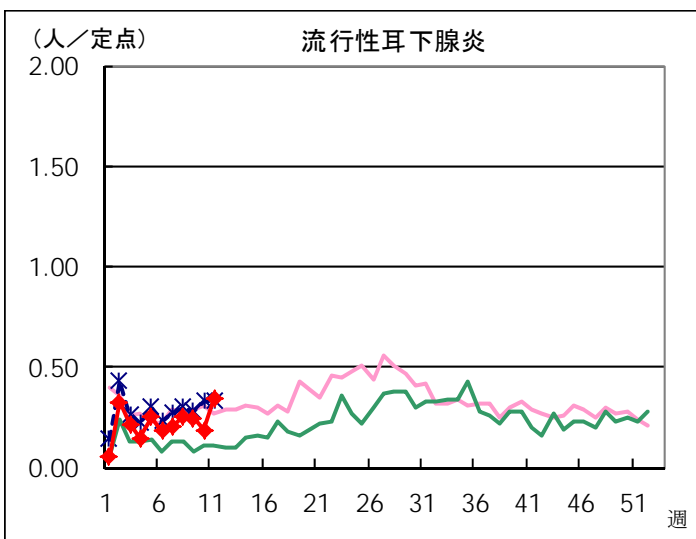
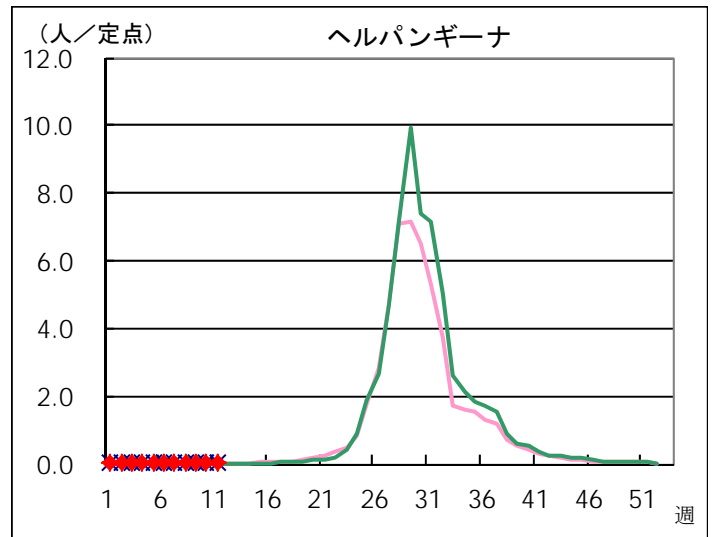
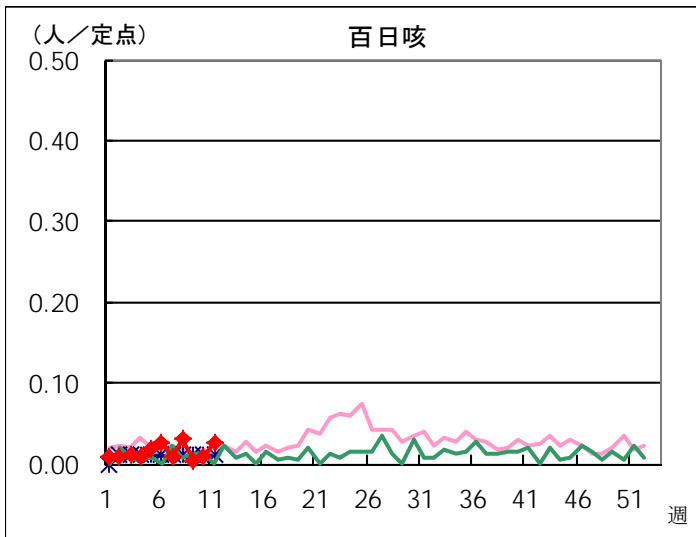
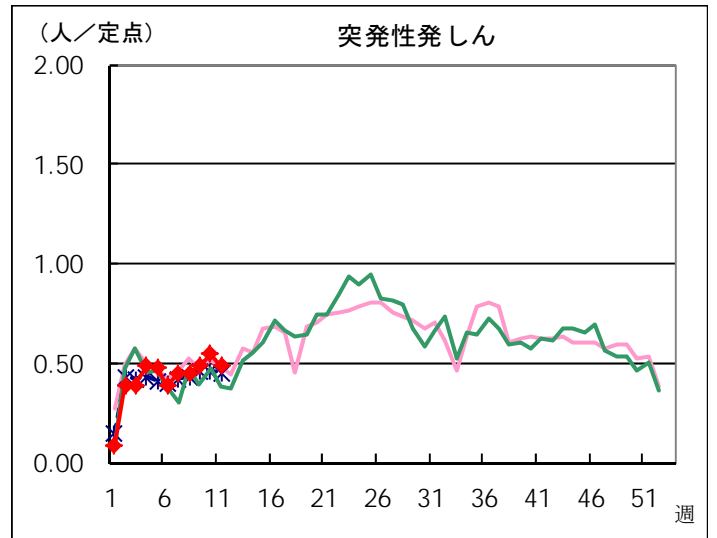
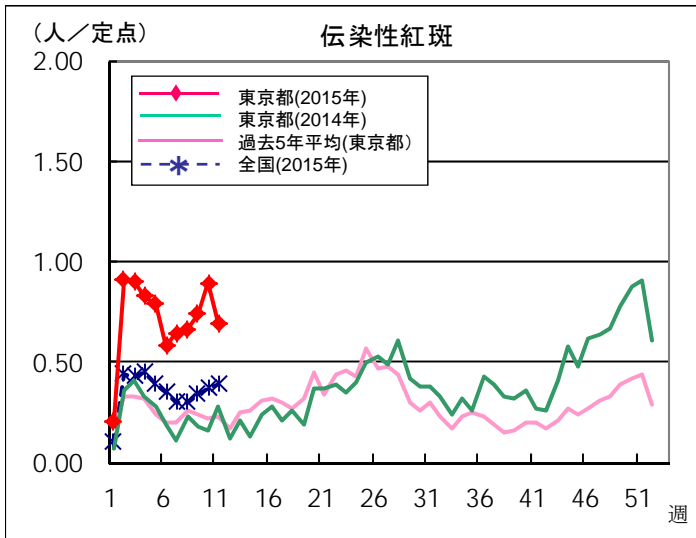
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				6	3			1			
中央区		3	4	36		1	1				
みなと	6	6	18	51	2		1	3	1		
新宿区	5	1	16	48	1			3	1		
文京			8	25	4			3			4
台東			6	65	3	1	2	1		1	3
墨田区		1	19	35		1	3	5			5
江東区	1	1	37	143	8		6	4		1	4
品川区	1	2	40	90	2		2	3			
目黒区			13	33		2	3	1			
大田区	6		69	185	5	3	15	8	1		
世田谷	1	4	27	131	6		5	6			1
渋谷区	2			19	1		1				
中野区		1	14	60	14		1	2			
杉並			31	70	6		10	1			2
池袋	2	1		15			1	1			
北区		3	12	62			14	3			
荒川区		2	36	39	3		4	5			2
板橋区	1		14	46	2	2	6	2	1		4
練馬区		2	36	82	3	1	15	4			4
足立	2	2	24	134	13	4	6	4			12
葛飾区	3	3	16	77	2	2	2	4		1	1
江戸川	3	6	46	114	4		4	4			14
八王子市	3		59	169	10		14	9			5
町田市	5		66	95	4		7	3			2
西多摩	1	3	12	58			3	3			12
南多摩	1	1	32	115	6		15	12			1
多摩立川			46	84	10		10	7			4
多摩府中	4	7	72	145	8	3	6	11	3		4
多摩小平	2	4	83	108	14		23	12			4
島しょ		2			2						
東京都合計	49	55	856	2,340	136	20	180	125	7	3	88

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田	1		10								
中央区			36		1						
みなと			16								1
新宿区			22		1						
文京			7		3						
台東			15								
墨田区			14		1						2
江東区	3		73								
品川区			41								
目黒区			7								
大田区		1	47								
世田谷		1	60				1				
渋谷区			3							1	1
中野区		2	27								
杉並	1	2	64								
池袋			19		2						
北区			23								
荒川区			20		2						
板橋区			19		1			1		1	
練馬区			45		1						
足立			31								
葛飾区			32						1		
江戸川	1		37		1						
八王子市		3	70								
町田市	1	2	41								
西多摩			34								
南多摩			53								
多摩立川	1		80								
多摩府中	1	2	60					1			
多摩小平			99		2			1			3
島しょ			2								
東京都合計	9	13	1,107		15		1	3	1	2	7

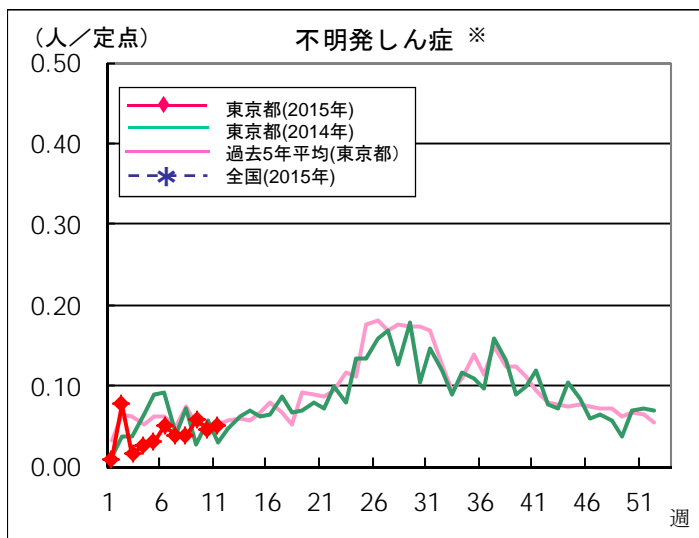
# 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年11週 現在)

## ◆ 小児科定点



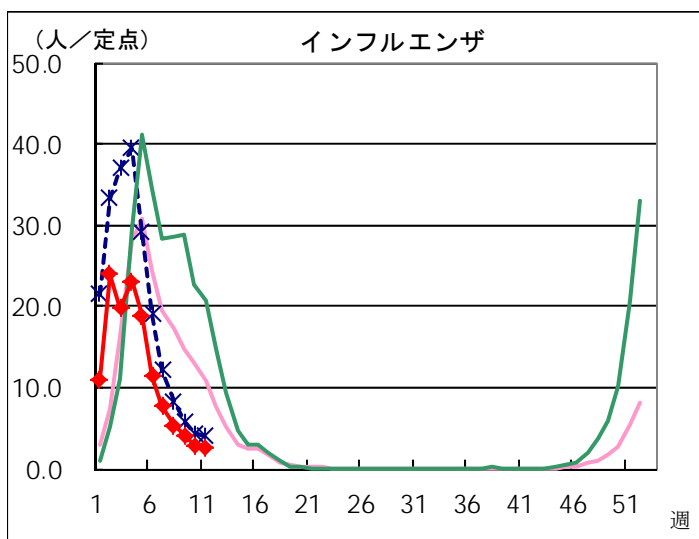


※ 東京都独自対象疾患

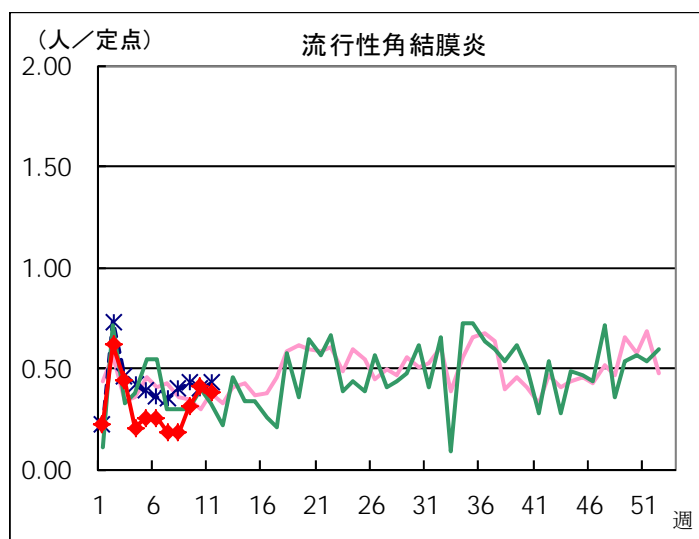
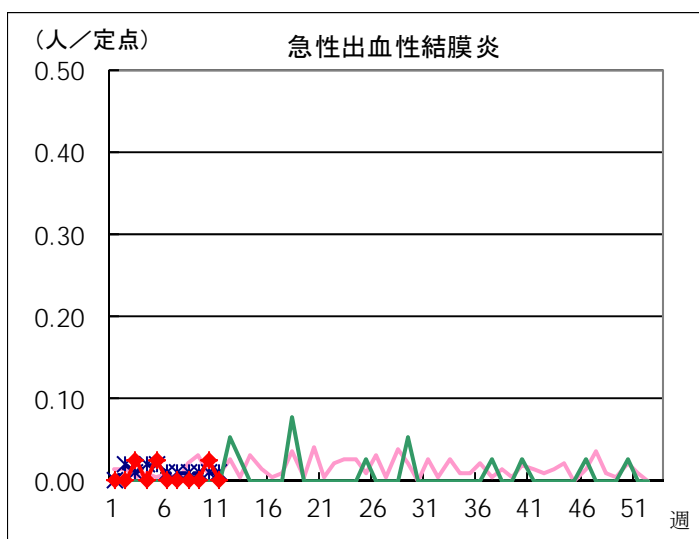


※ 東京都独自対象疾患

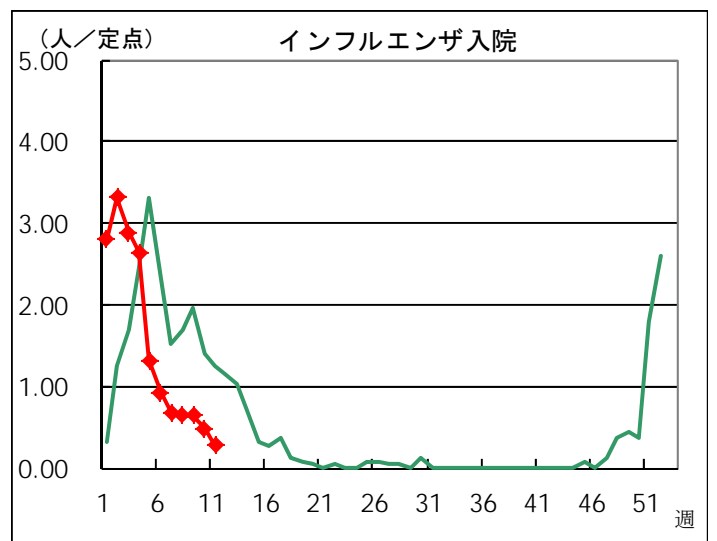
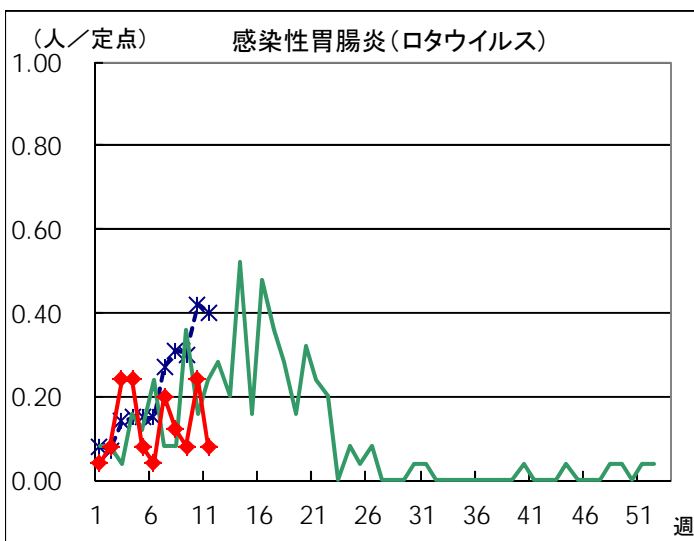
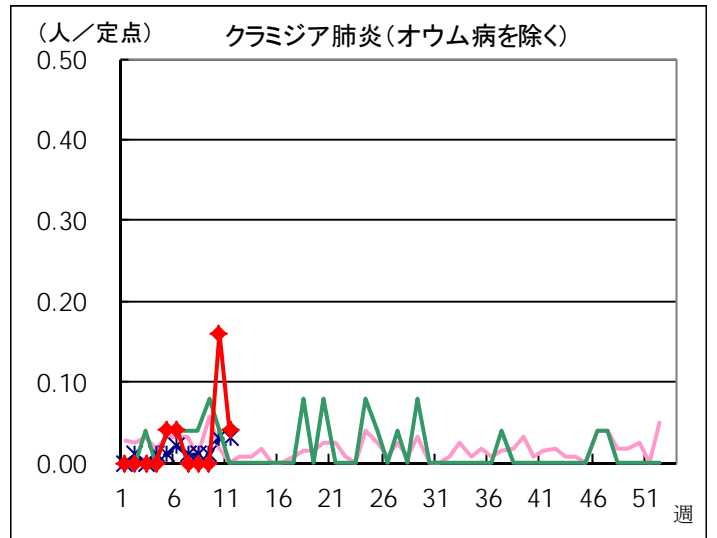
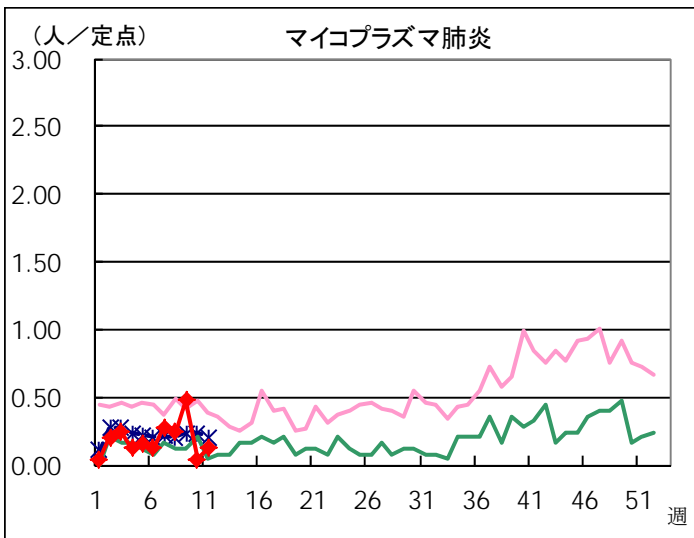
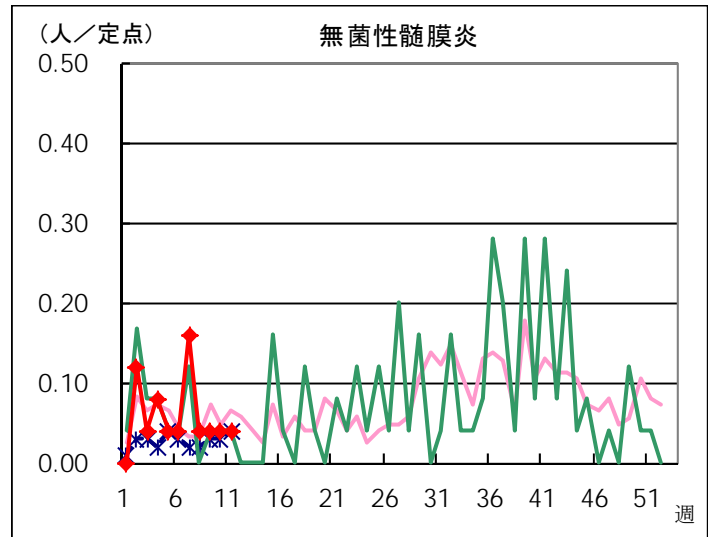
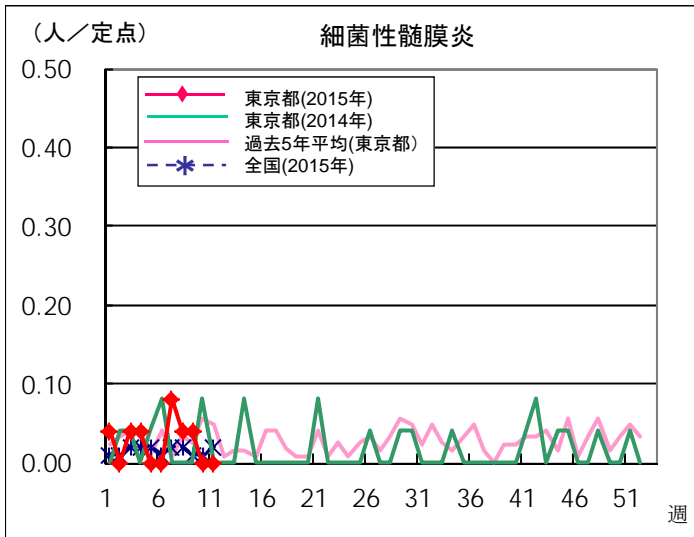
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
記載なし	デング熱	42	血液	デングウイルス
2/28	伝染性単核球症	5	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス
2/24	伝染性単核球症	6	咽頭拭い液	ライノウイルス
2/27	感染性胃腸炎	2	直腸拭い液	ノロウイルスGⅡ A群ロタウイルス
2/27	気管支炎	2	鼻汁	ヒトメタニューモウイルス
2/27	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス
3/3	流行性耳下腺炎	4	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
3/2	扁桃腺炎	4	咽頭拭い液	EBウイルス
3/3	急性咽頭炎 気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス RSウイルス
3/1	気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス
3/6	不明発しん症	8	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトパルボウイルスB19
3/2	気管支炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス
3/2	伝染性紅斑	7	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトパルボウイルスB19
2/27	咽頭結膜熱疑い	3	咽頭拭い液	アデノウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年10週			1	3
2014-2015年 シーズン累計*	1		219	25

\* 2014-2015年シーズンの開始は第36週(2014年9月1日～)

## 病原体検出情報【週別】

検出病原体	2015年							
	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週
アデノウイルス	7	6	20	2	3	3	3	5
ライノウイルス	1	1			1	3	2	5
ポリオウイルス								
コクサッキーウイルスA群	1		2			1		
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス		1	2					
単純ヘルペスウイルス		1				1		
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	2	1	4	1		3		
EBウイルス	1				1	1		1
サイトメガロウイルス	1		1					
ムンプスウイルス						1		1
麻疹ウイルス	1			1				
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19	1	3	5	1			1	2
RSウイルス			1					1
ノロウイルス	1	3	5	3			8	1
ロタウイルス								1
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	9	25	18	12	12	11	6	1
インフルエンザウイルスB型		2	2	5		5	2	3
インフルエンザウイルスAH1pdm09							1	
デングウイルス(抗体を含む)								1
その他のウイルス							1	1
その他の病原体								



# 病原体検出情報【臨床診断名別】

2015年3週～2015年10週

	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数	136	13	20	30	22	6	6		4	11	25	8				23
アデノウイルス	5	4	4	8		4	1			6	7	3				7
ライノウイルス	1	1	5							1	1	1				3
ポリオウイルス																
コクサッキーウイルスA群									2	1						1
コクサッキーウイルスB群																
エコーウイルス																
エンテロウイルス71																
その他のエンテロウイルス						1				1						1
単純ヘルペスウイルス		1			1											
水痘・带状疱疹しんウイルス																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型											7					4
EBウイルス		2										1				1
サイトメガロウイルス		1									1					
ムンプスウイルス												2				
麻疹ウイルス										1	1					
風しんウイルス																
ヒトパルボウイルスB19										7	4					2
RSウイルス			2													
ノロウイルス				21												
ロタウイルス				1												
インフルエンザウイルスAH1亜型																
インフルエンザウイルスAH3亜型	90		2													2
インフルエンザウイルスB型	19															
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1															
デングウイルス(抗体を含む)																1
その他のウイルス			1	1												
その他の病原体																

## 月報告 定点把握対象疾患 報告数 2015年2月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	104	1.89	191	3.47	55	55
		女	87	1.58				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	71	1.29	97	1.76		
		女	26	0.47				
	尖圭コンジローマ	男	67	1.22	83	1.51		
		女	16	0.29				
	淋菌感染症	男	73	1.33	98	1.78		
		女	25	0.45				
	膣トリコモナス症	男			6	0.11		
		女	6	0.11				
	梅毒様疾患	男	17	0.31	25	0.45		
		女	8	0.15				
基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	49	2.04	76	3.17	24	25
		女	27	1.13				
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	18	0.75	22	0.92		
		女	4	0.17				
	薬剤耐性緑膿菌感染症	男	1	0.04	1	0.04		
		女						

2015/3/12集計

注. 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、2014年9月19日に全数把握対象疾患に変更された。

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】 2015年2月

### < 男性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膣トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳							9	2	
1～4歳							4	5	
5～9歳							1	1	
10～14歳							3		
15～19歳				1		1			
20～24歳	16	2	6	11		1	1		
25～29歳	20	2	10	14		2			
30～34歳	18	9	18	18		3	1		
35～39歳	20	17	7	9		6			
40～44歳	13	10	10	11		2	1		
45～49歳	8	8	9	3		1	1		
50～54歳	4	10	2	2		1	3		
55～59歳	4	7		2			1		
60～64歳	1	3	3	2			2		
65～69歳		1					2	2	
70歳～		2	2				20	8	1
合計	104	71	67	73		17	49	18	1
先月比		-9	11	23	-1	11	-7	10	

### < 女性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膣トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳							8		
1～4歳							3	2	
5～9歳							2		
10～14歳									
15～19歳	7		1						
20～24歳	31	1	6	7	1	2			
25～29歳	13	10	2	3	1				
30～34歳	11	6	2	2	3	1	1		
35～39歳	14	1	2	4	1	3	1		
40～44歳	4	1	2	3					
45～49歳	3	2		5		1	1		
50～54歳	1	3	1						
55～59歳	2			1		1			
60～64歳							1		
65～69歳		2						1	
70歳～	1						10	1	
合計	87	26	16	25	6	8	27	4	
先月比	-1	-5	-5	-11	-4		4	-3	-1

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数 【保健所別】 2015年2月

< 男性 >

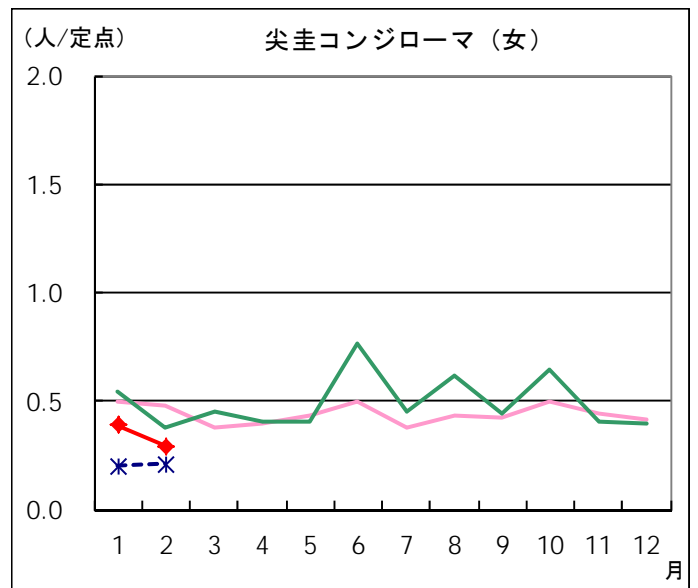
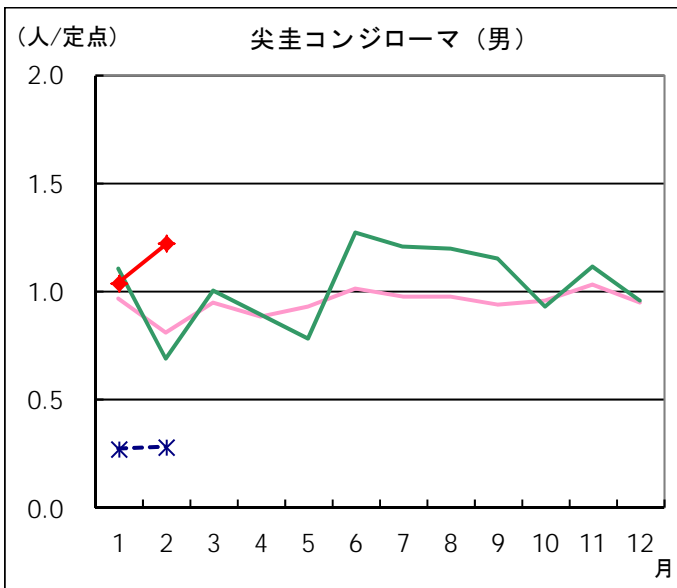
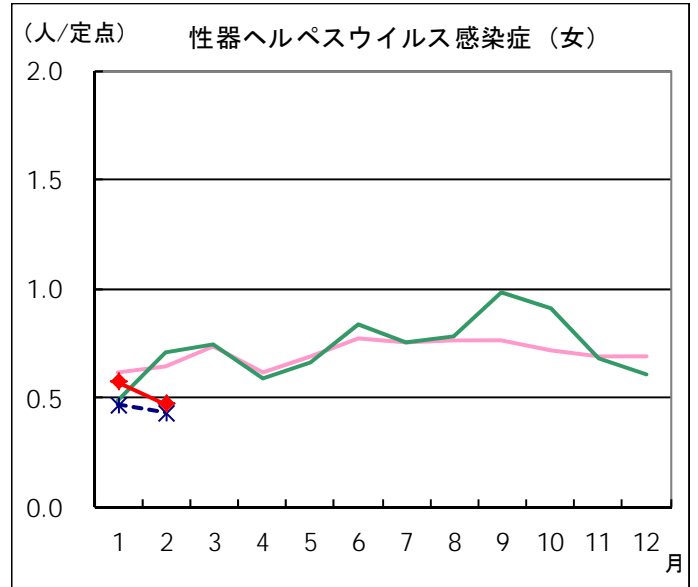
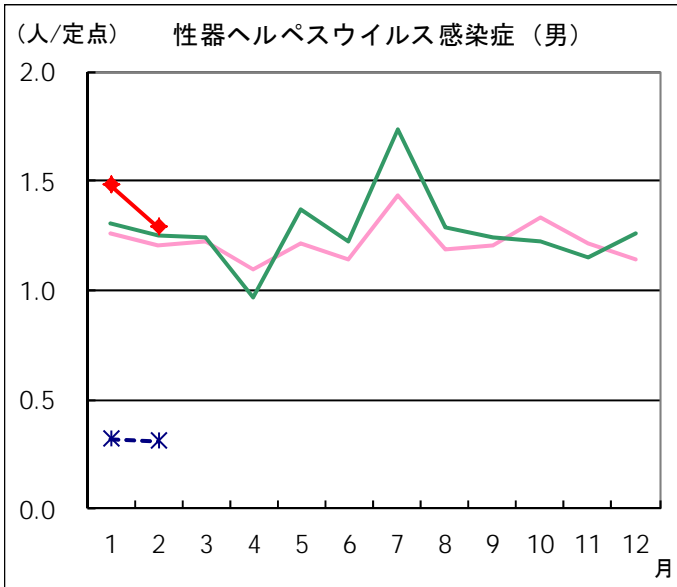
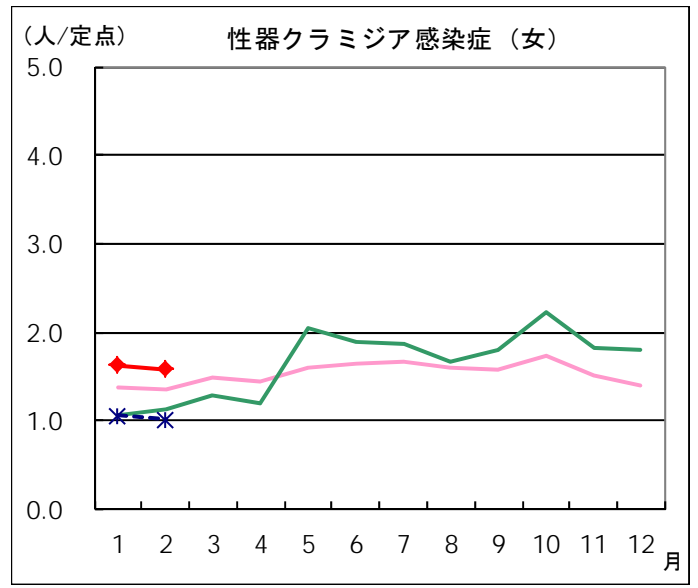
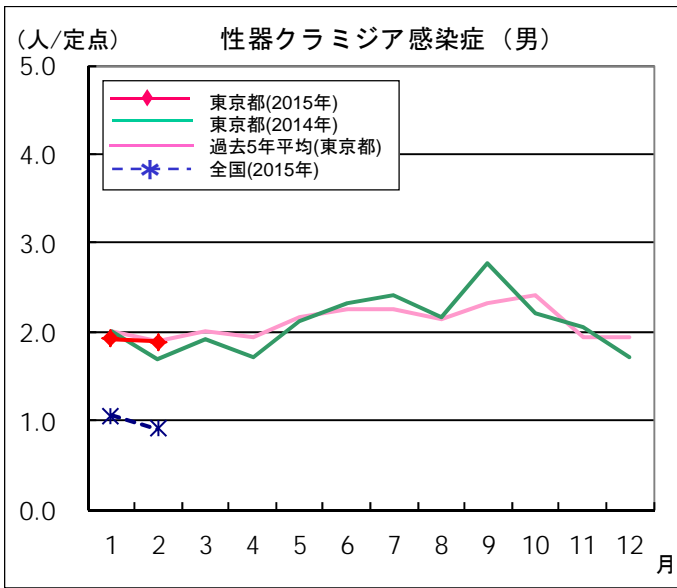
	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	11	1	4	6		1	23
中央区	3	13	6	1	5			25
みなと	2	11	34	8	2			55
新宿区	7	22	12	37	27		8	106
文京	1	5	1	3	1			10
台東	2	1			2			3
墨田区	2		1		1			2
江東区	2	7	5	2	8		1	23
品川区	1	1	6	3	1			11
大田区	2	3			2			5
渋谷区	5	8			7			15
中野区	2	6			1			7
杉並	2	2	1		3		1	7
池袋	3	9	3	5	5		1	23
北区	1			1				1
荒川区	1							
板橋区	2	1	1	1				3
足立	2							
江戸川	2	1		1	1		5	8
八王子市	4	1						1
町田市	1							
多摩立川	2	1						1
多摩府中	3	1		1	1			3
多摩小平	1							
合 計	55	104	71	67	73		17	332
定点当たり		1.89	1.29	1.22	1.33		0.31	6.04

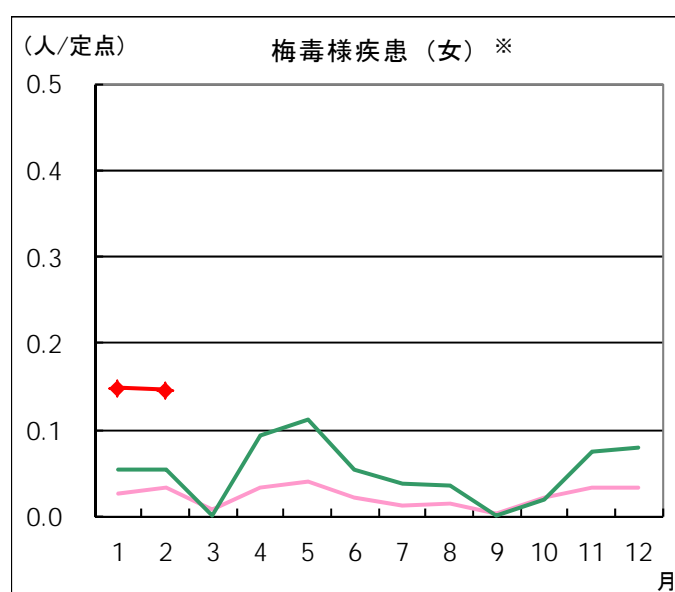
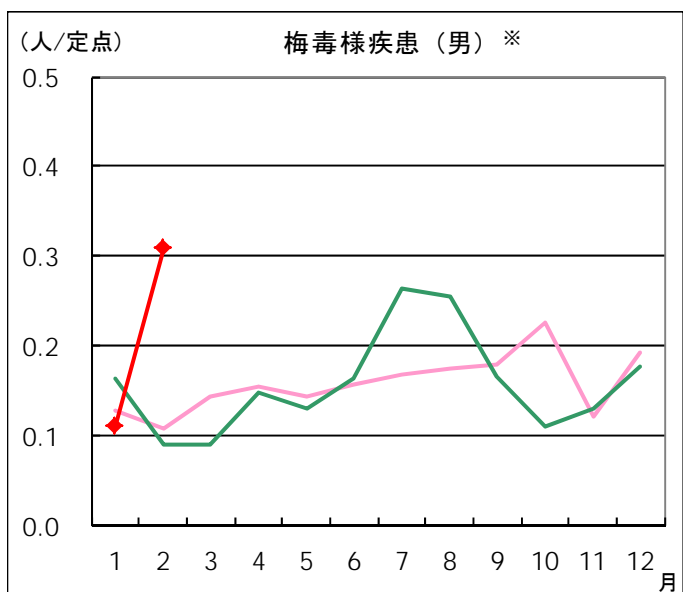
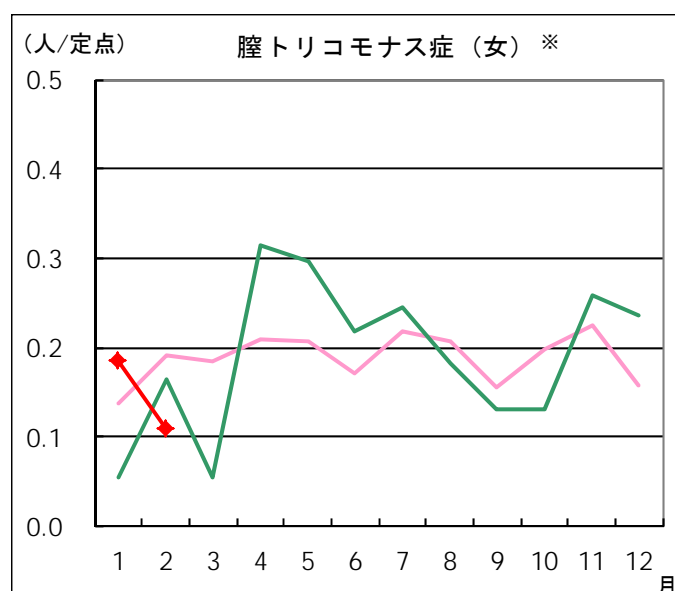
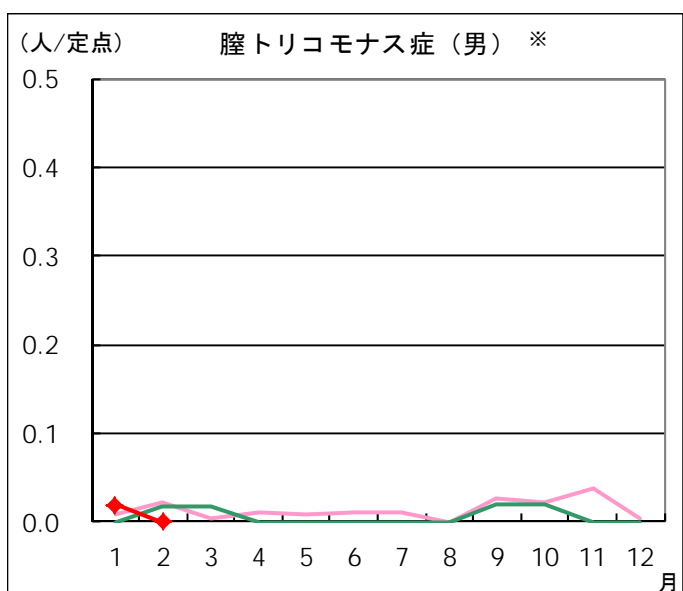
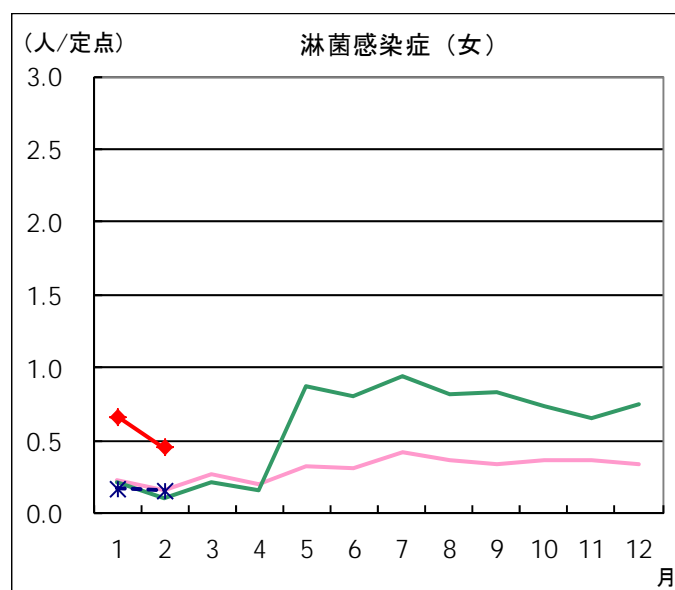
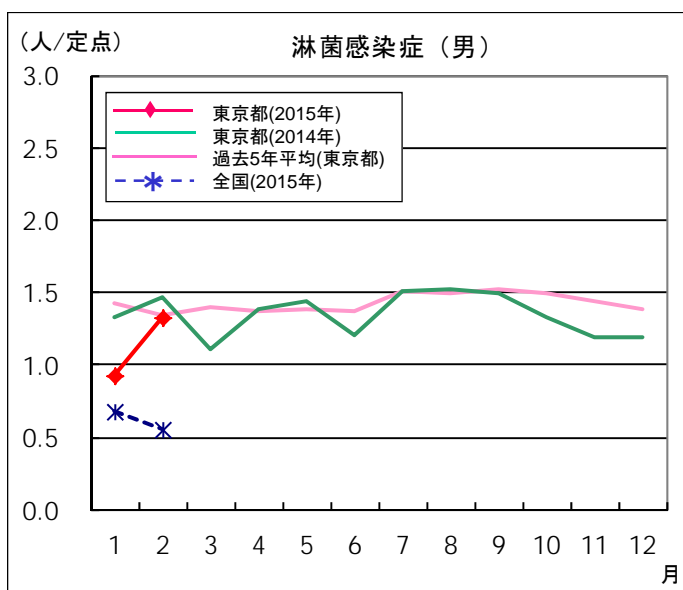
< 女性 >

	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	3						3
中央区	3	2	3					5
みなと	2	1	3	2			4	10
新宿区	7	11	4	5	1	1	3	25
文京	1							
台東	2	16	1	1	17			35
墨田区	2	3					1	4
江東区	2					1		1
品川区	1							
大田区	2	8						8
渋谷区	5	3	5	1				9
中野区	2	1		1				2
杉並	2							
池袋	3	10	4		4			18
北区	1							
荒川区	1					2		2
板橋区	2	3			1			4
足立	2	3				1		4
江戸川	2	4						4
八王子市	4	1	1	1				3
町田市	1		3	2				5
多摩立川	2	17	1	2	2	1		23
多摩府中	3			1				1
多摩小平	1	1	1					2
合 計	55	87	26	16	25	6	8	168
定点当たり		1.58	0.47	0.29	0.45	0.11	0.15	3.05

# 月報告 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年2月 現在)

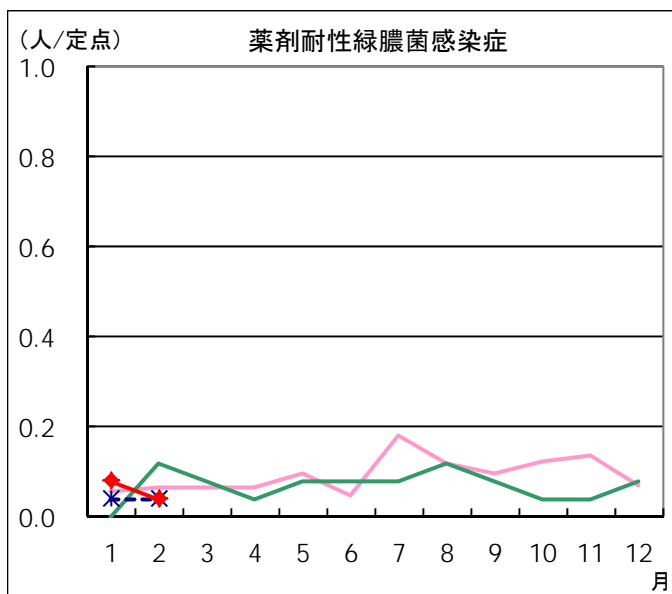
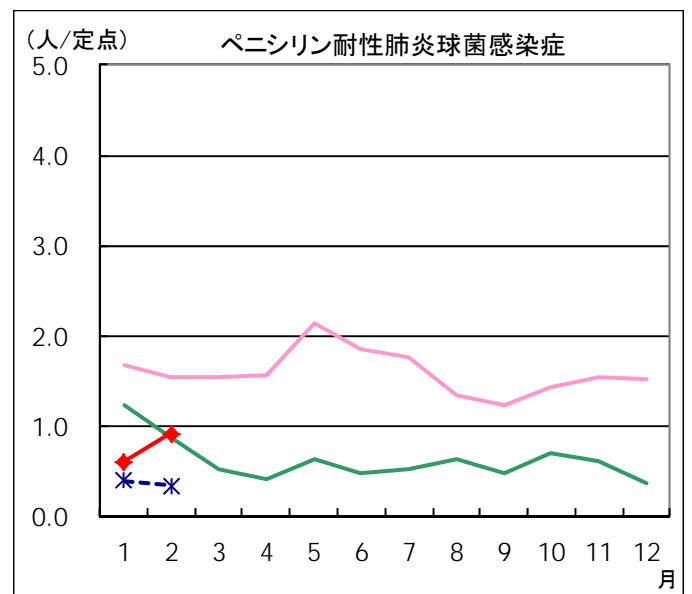
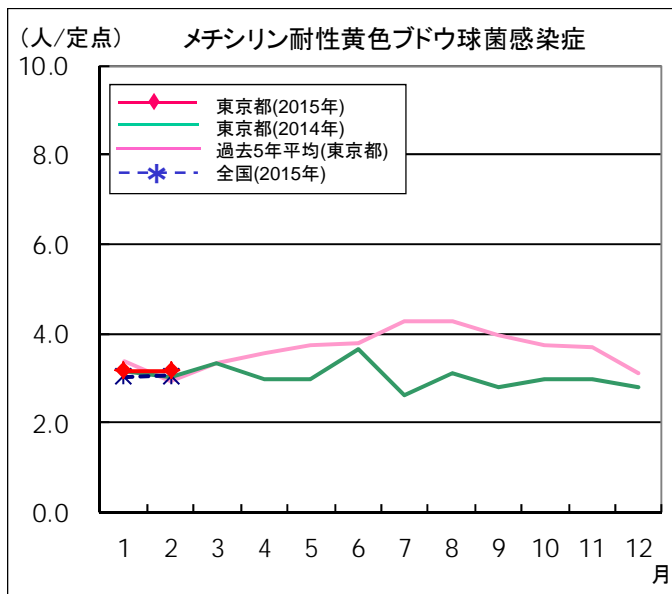
## ◆ 性感染症定点





※東京都独自対象疾患

◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報(月報告)

受付日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体
2/6	尖圭コンジローマ	62	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス90型
2/13	コンジローマ疑い	56	男	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス6型
2/13	コンジローマ疑い	53	男	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス11型
2/13	性器ヘルペス	73	男	皮膚病巣	単純ヘルペスウイルス2型
2/18	外陰部ヘルペス疑い	26	記載なし	陰部擦過物	単純ヘルペスウイルス1型
2/25	肛囲コンジローマ疑い	45	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス6型
2/25	尖圭コンジローマ	24	女	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス6型 ヒトパピローマウイルス90型
2/27	尖圭コンジローマ	29	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス6型
2/27	尖圭コンジローマ疑い	28	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス6型
2/3	クラミジア感染症	19	女	陰部擦過物	クラミジア・トラコマチス
2/4	尿道炎	22	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/4	尿道炎	43	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/4	尿道炎	23	男	陰部擦過物	淋菌
2/18	尿道炎	42	男	陰部擦過物	淋菌
2/18	尿道炎	37	男	陰部擦過物	淋菌
2/18	尿道炎	42	男	陰部擦過物	淋菌
2/18	尿道炎	24	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/18	尿道炎	49	男	陰部擦過物	淋菌
2/20	尿道炎	37	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/25	尿道炎	41	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/25	尿道炎	33	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/25	梅毒	36	男	陰部擦過物	梅毒トレポネーマ
2/25	尿道炎	49	男	陰部擦過物	淋菌
2/25	前立腺炎	60	男	尿	クラミジア・トラコマチス 淋菌
2/25	尿道炎	41	男	陰部擦過物	淋菌
2/25	尿道炎	37	男	尿	クラミジア・トラコマチス
2/25	尿道炎	61	男	尿	クラミジア・トラコマチス



## <感染症豆知識>

### 予防接種の変遷と現状 小児科医の現場から

2011年のWHOの統計によると、193カ国の乳児定期予防接種の一人当たりの接種回数が、我が国は世界で最下位であった。

1948年予防接種法が制定され、公衆衛生と接種率の向上でワクチンで防げる疾患(VPD Vaccine Preventable Diseases)が激減したが、1970年代の種痘禍、全菌体百日咳ワクチン脳炎などの健康被害が大きな問題となり、我が国の新規ワクチン導入は低迷した。麻疹輸出国と言われ、経済大国であるがワクチン後進国の状態がワクチンギャップと呼ばれた。

2012年以来 不活化ポリオ、4種混合ワクチン、Hibと肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチン、水痘ワクチンと23価高齢者用肺炎球菌ワクチンが相次いで定期接種化され、やっと世界標準に近づいた。しかしWHOが全世界的に定期化を勧告しているムンプス、ロタウイルス、HBの定期化はまだ行われていない。

小児科の予防接種外来では、接種ワクチンの種類と回数が大幅に増え、0～1歳のワクチンは9種(13疾病)、22～23接種にのぼる。早期免疫獲得のため同時接種を推奨している。

接種方法は我が国は上腕部、皮下注であるが、海外では大腿部、筋注が一般的である。2012年に我が国でも大腿部接種が認められ、より安全な接種が可能となった。

お母さんのワクチン接種に対する心配の第一はワクチンの副反応と同時接種の安全性である。海外では同時接種が一般的であり、その安全性は確約されている。初回接種時に乳幼児期の過密なワクチンスケジュールの相談に乗り、十分に説明し不安を軽減することも小児科医の大切な役割である。

予防接種は国策であり「個人を救うのみならず、接種率を高めて病気の流行を阻止し、免疫弱者を救い、究極的に疾病の根絶を目指す世界的プロジェクトである」という意義と目的を医療者が共有し、啓蒙することが予防接種医療で最も大切である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)